



〒104-0044  
 東京都中央区明石町10-1  
 聖路加国際大学礼拝堂  
 TEL 5550-2416 (日曜)  
 TEL 5550-7043 (平日)  
 FAX 5550-7070  
 E-mail: chapel@luke.ac.jp  
 URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>

2019年3月3日 No.253



臨時チャペル

聖書に学ぶ会

- 第1・第2日曜日 午後 聖書を読む会
  - 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書
  - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書
- 場所…旧館2階 プライベートルーム  
 日程・場所変更の場合があるため事前にご確認ください。

巻頭メッセージ

晴天の霹靂と神の関心

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■ 午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■ 午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

■ 午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■ 午前10時 日曜学校礼拝 臨時チャペル

■ 午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル

■ 午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

## チャプレンメッセージ

## 晴天の霹靂と神の関心

司祭 ケビン・シーバー

人生には時々、一撃を食らわされることがある。一階の居間が泥にまみれる。医師が険しい顔でニュースを伝える。何の前触れもない喪中はがきが届く。社長が残念がつて解雇を宣言するなど、晴天の霹靂のように惨事が起こり、その瞬間にすべてが変わる。今朝起きたら何事もなかったが、今や何もかもめちゃくちゃ。昨日まで想像していた将来が消え去り、残るのはショック、悲しみ、吐き気、怒り……。

人生は大変だが、それを二倍大変にするのはこういった不幸はただの偶然に思えること。場合によってその原因は何となく分かる。自らの失敗や誤った判断とか。他の人の悪意や愚かさや無知とか。原因については全く見当もつかない場合が実に多い。なお、たとえ原因が分かっているとしても、どうして今、どうして僕に、どうしてここまでこんな目に、とそういう心の叫びは消えないと思う。

人生の一撃を食らいながらその意味を見出せないのは辛い。ひよつとしたら見出せないのではなく、実際に何の意味もないのでは、と忍び寄る虚無感もつと辛い。

こうやって人生の雷に撃たれたとき、少し助けになることが一つあると思う。それは、わたしたちが信じている創造主はエネルギーだけではなく「お方」である、ということ。神さまがただ偉大な力の持ち主だけだつたら——ギリシャ神話の神々のように——それが何の励ましにもならない。むしろ、そういう神は怖い。全く関わらない方が良いと思う。

ところが、わたしたちクリスチャンは、まことの創造主なる神は万能であり「お方」でもあることが分かっている。とても良い方、憐れみ深い方であり、わたしたち一人一人に愛しく関心を寄せてくださる方であることが分かっている。(どうしてそうなのかは不可解な神祕ではあるが。)

神さまはそういうお方であることが分かっているからと言って、混乱がなくなるわけではない。むしろ、増えるかもしれない。神さまとのお造りになった世界はどうしてこういうふうになつているのか、理解に苦しむと思う。また、神さまの慈悲深さが分かつて、不幸に伴う嘆きがなくなるわけでもない。聖書の詩編の約半分は嘆きのものである。

ただ、造つてくださった神さまは僕を顧みてくださらないのか、僕は神さまに見捨てられたのか、神さまに愛されていないのか——そういう心配はいらぬ。イエス・キリストが十字架の死を引き受けるほど、天の父の愛を示そうとしておられた。生きることの困難と困惑に打ちひしがれるとき、その示された揺るぎない愛は確かに大きな慰めになる、と年を重ねれば重ねるほど痛感して感謝の気持ちが増す。